

図書館員のひみつの本棚 第166回

今月は国語辞典に関する本の紹介です。

『ことばハンター 国語辞典はこうつくる』

飯間 浩明／著 ポプラ社 2019年 1200円（税抜）

<お勧め年齢>

乳幼児—— 低学年—— 中学年—— 高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆
高 校☆ — 般——

（☆が多い年齢の子どもにお勧めです。）

<本の紹介>

『三省堂国語辞典』の編集委員であり、アニメ版『舟を編む』の監修も務めた著者が、国語辞典はどうやって作られているのかを教えてくださいの本です。

国語辞典を作るために、編集委員の人達は「ことば」を「ハント」します。つまり、言葉を集めるのです。国語辞典は昔からある言葉の意味を載せるだけでなく、新しい言葉や、昔からある言葉の新しい使い方を説明するのも大きな役目なのです。

町を歩き、アニメを鑑賞し、新聞を読み…、ありとあらゆる言葉を集めます。そして、その言葉がどんな意味で使われているのかを簡潔に説明していくのです。

誰でも一度はお世話になったことのある国語辞典、何気なく使っていましたが、よく考えれば、あれだけの数の言葉に意味を与えていく作業はすごいですよね。

インターネットがあるから国語辞典なんかなくて結構。そう思っている人も、この本を読んだ後には国語辞典の価値に気がつくはずですよ。

<子どもに手渡す時のポイント>

「国語辞典は、ことばが正しいか、まちがいかを決める裁判官」ではなく、「ことばの使い方について、アドバイスをするもの」。人と人が面と向かって話すことが少なくなり、SNSなど短い言葉でのコミュニケーションが増えていくこれからの時代だからこそ、言葉の持つ多様な意味を知り、言葉で悩む人の信頼できる相談相手になりたい、という著者の考えは、これからの情報ツールの一つのあり方も私たちに伝えてくれます。国語辞典を子どもたちと利用する時に、一緒に手渡してほしい1冊です。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。